

大雨と雷、突風及びひょうに対する農作物等の 技術対策

福島県農林水産部農業振興課

令和5年6月29日06時01分、「大雨と雷及び突風に関する福島県気象情報第3号（福島地方気象台）」が発表されました。今後の気象情報に注意するとともに、農作物の管理には十分注意してください。

福島県では、29日は上空の寒気や暖かく湿った空気の影響により、大気の状態が非常に不安定となるため、雷を伴った激しい雨が降り、大雨となる所がある見込みです。土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒してください。また、竜巻などの激しい突風、落雷、ひょうに注意してください。

【気象状況】

福島県では、上空の寒気や暖かく湿った空気の影響により、大気の状態が非常に不安定となっています。大気の状態が非常に不安定な状態は29日夜のはじめ頃にかけて続くでしょう。

【実況】

＜雨の実況＞

降り始め（28日0時）から29日5時までの降水量（アメダスによる速報値）

金山	124.0ミリ
只見	115.0ミリ
喜多方	107.5ミリ
若松	96.5ミリ
西会津	94.5ミリ

【予想と防災事項】

＜雨と雷の予想＞

福島県では、雷を伴った激しい雨が降り、大雨となる所がある見込み。強い雨雲がかけり続けた場合は、警報級の大雨となる可能性がある。

29日に予想される1時間降水量は、いずれも多い所で、

中通り	30ミリ
浜通り	30ミリ
会津	30ミリ

29日6時から30日6時までに予想される24時間降水量は、いずれも多い所で、

中通り	60ミリ
浜通り	60ミリ
会津	60ミリ

その後も、福島県では雨が断続的に降り、総降水量が増えるため、30日から7月1日頃にかけても警報級の大雨となる可能性がある。

<防災事項>

福島県では、これまでの雨で地盤の緩んでいる所があります。29日は、大雨による土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒してください。また、竜巻などの激しい突風、落雷、ひょうによる農作物や農業施設等への被害に注意してください。発達した積乱雲の近づく兆しがある場合は、建物内に移動するなど、安全確保に努めてください。

【補足事項】

今後発表する警報、注意報、気象情報、竜巻注意情報に留意してください。

次の「大雨と雷及び突風に関する福島県気象情報」は、29日16時30分頃に発表する予定です。

【共 通】

- 1 突風や降ひょうに備えて、パイプハウス等の点検やビニールの補修を行いましょ。また、露地栽培では、事前に収穫可能な農作物の収穫に努めましょ。

【水 稲】

1 事前対策

- (1) 増水に備え、用排水路を点検し、ゴミ等を取り除いておきましょ。
- (2) 大雨により水路が増水している場合は、危険ですので近づかないでください。

2 事後対策

稲が水没している場合は、葉先が出るように排水しましょ。速やかな排水は、黄化萎縮病対策としても重要です。

【大豆・麦類・夏そば】

1 事前対策

滞水しやすいほ場では、必要に応じて畦畔の切削等を実施し排水に備えましょ。

2 事後対策

地表面に滞水が見られる場合は、溝切りなどの排水対策を行いましょ。

【野菜・花き】

1 事前対策

(1) 共 通

- ア 水が停滞しやすいほ場ではあらかじめ明きよ等の排水溝を整備しましょ。
- イ ほ場周囲の排水溝を点検し、速やかに排水できるようにしておきましょ。水害が発生しやすい場所では強制排水のポンプも準備しておきましょ。
- ウ パイプハウスでは、被覆資材及び止め具（マイカ線、ビニペット等）を点検し、ビニールの破損があれば補修しましょ。
- エ 施設では、天窓や扉があおられたり風雨が吹き込まないよう完全に閉めておきましょ。
- オ は種や定植を予定しているものは、天候回復後に実施しましょ。

2 事後対策

(1) 共 通

- ア 停滞水は、明きよなどで速やかな排水に努めましょ。
- イ 冠水した場合は、ほ場への出入りによって土壌の物理性が悪化しないよう配慮しましょ。ぬかるむ場合は、出入りを極力避けましょ。

(2) 野菜

- ア 排水後、ほ場作業が可能になったら直ちに畦間の中耕を行い、土壌の通気性を良くし根の働きを回復させましょう。
- イ 果菜類等でネット等からはずれたつるや茎葉等は、再度誘引し直しましょう。茎葉の損傷が激しい場合は、新葉（枝・つる）の発生を確認してから摘除しましょう。
- ウ 冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害にかかりやすくなっていますので、茎葉に付着した砂泥は水をかけて洗い流し、速やかに適切な薬剤散布を行きましょう。また、液肥や酸素供給剤のかん注、液肥の葉面散布により、草勢回復を図りましょう。

(3) 花き

- ア キクやリンドウ、シンテッポウユリ等の露地栽培では、風雨により損傷を受けると病害が発生しやすいので、速やかに適切な薬剤散布を行ったり、草勢回復のために液肥の葉面散布を行きましょう。
- イ ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を行うとともに、付着した泥を洗い流し、灰色かび病等の予防のため薬剤散布を行きましょう。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢回復を図りましょう。

【果 樹】

1 事前対策

- (1) 水が停滞しやすい園ではあらかじめ明きょ等の排水溝や暗きょを整備しましょう。
- (2) りんごのわい性台樹は倒伏しやすいので、支柱への結束状態を確認し、不十分な場合は補強しておきます。また、木支柱の場合は、支柱の根元が腐敗していないかどうか確認しましょう。
- (3) 立木では主枝などの大枝が裂けるおそれがあるので、支柱を添え、折損などの未然防止に万全を期してください。
- (4) 果樹棚等の施設は、前もって点検し、強風の前にアンカー補強や棚線の締め直し等を行います。また、棚周囲に防風ネットを設置している場合は、風で飛ばされないように補強しましょう。
- (5) モモせん孔細菌病やナシ黒星病などの病害は、降雨により病原菌の分散が助長されるので、効果のある薬剤を降雨前に散布するよう心がけましょう。
- (6) 多目的防災網を設置している園地では、早急に網を広げましょう。

2 事後対策

長時間に渡る浸水や滞水は根や葉の呼吸を阻害し、生育不良や枯死を招くので速やかに対策を実施してください。

- (1) 滞水している園地では、明きょなどにより速やかな排水に努めましょう。
- (2) 土砂が流入した園では、根の呼吸を助けるため、なるべく早く樹冠下の土砂を取り除きましょう。
- (3) 枝葉や果実などに泥が付着した場合はできるだけ早く洗い落とし、病害の発生を防ぐため適切に薬剤散布を実施しましょう。なお、定期散布が近い場合は、この散布に置き換えて実施してください。
- (4) 倒伏した樹はできるだけ早く起こし、土を盛り、支柱等で固定します。
- (5) 大枝が裂けた場合は、ボルトやカスガイ等で止めるか、縄などでしばり傷口を接着させます。また、大枝が折損した場合は、折れた部分からやや基部の健全な部分まで切り戻しましょう。さらに、傷口から病害などが侵入しないように、傷口の保護に努めます。
- (6) 果樹棚のワイヤー等が破損した場合は、速やかに修復や補強を実施しましょう。

【畜産・飼料作物】

1 事前対策

- (1) 風雨の吹き込みを未然に防止するため、畜舎、飼料庫、飼料タンク、堆肥舎及び排水溝等の破損や亀裂等の有無を確認し、必ず補修等を行いましょう。
- (2) 開放された飼料の保管場所では、飼料をシートで覆うなどして、雨水がかからないようにしまししょう。
- (3) 堆肥舎は、風雨の吹き込みにより、堆肥や汚水が流出することが心配されますので、堆肥をシートで覆うなどして、流出を防止しまししょう。
- (4) 停電や断水時等の対応をあらかじめ確認し、被災時には、自家発電機等による搾乳や生乳冷却等の対応ができるよう準備しておきまししょう。
- (5) 水はけの悪い草地や飼料畑には、明きょを掘削するなど、速やかに排水できるようにしまししょう。

2 事後対策

- (1) 畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、施設内の乾燥に努めまししょう。
- (2) 滞水している草地や飼料畑は、明きょなどを点検し、速やかに排水しまししょう。
- (3) 豪雨により草地や飼料畑で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復しまししょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 0 2 4 (5 2 1) 7 3 4 4

○農業振興課ホームページ

以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>